

第五次総合計画後期基本計画策定 第2回柏崎市総合計画審議会 議事概要

- 1 日 時 令和3年（2021年）4月22日（木） 午後3時30分から午後5時00分まで
- 2 場 所 柏崎市文化会館アルフォーレ マルチホール
- 3 出席者
 - (1) 委 員 樋口秀会長、三宮真美副会長、相田浩委員、工藤孝一委員、近藤千鶴委員、山田秀貴委員、吉田匡慶委員、竹井みどり委員、三嶋崇史委員、霜田真紀子委員、大石友子委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、市民生活部参事、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局局長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係長、同係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・市議会意見交換会 概要報告（令和3（2021）年3月23日開催）
- ・柏崎市第五次総合計画 基本構想・前期基本計画（令和元年度送付済 冊子）

【当日配布】

- ・資料No.1 第2回柏崎市総合計画審議会 席次表及び出席者名簿
- ・資料No.2 基本構想の改定について
- ・資料No.3 総合計画審議会第2回分科会概要報告
- ・資料No.4 第五次総合計画 後期基本計画 施策の体系検討
- ・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員の選任について

5 会議概要

- (1) 会長挨拶
- (2) 議事

「基本構想の改定について」、「総合計画審議会第2回分科会報告」及び「第五次総合計画後期基本計画 施策の体系検討」について、委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者

発 言 概 要

【基本構想の改定について】

事 務 局 : (資料No.2に基づき基本構想改定内容等について説明)

委 員 : 生産年齢人口について、例えば70歳までにするという考えもあるが、そうした場合のグラフなどは作成しているか。

事 務 局 : 作成していない。

会 長 : 今後は、そういった視点も大切になるかもしれない。そういったことも前提として、現状の推計は厳しくなっているという認識を共有できればと思う。

委 員 : 就業人口について、一次産業、二次産業など、産業別の年齢構成は分かるか。例えば、農業など高齢化が進んでいるが、それはどの地域でも同じなのか。一次産業で必要な人数に対して人員が不足しているのかななどの数値に対する切り込み方は可能か。

事 務 局 : 国勢調査にあると思われるため、確認する。

会 長 : 次回にでも、提出をお願いできればと思う。事業継承の問題もあるので重要な視点である。人口推計においては、前期では施策により盛り上げていきたいという計画だったが、残念ながらそうならなかったということである。

【総合計画審議会第2回分科会報告】

事 務 局 : (資料No.3に基づき)各分科会会長に報告をお願いしたい。ただ、岡田委員が本日欠席のため、事務局から防災・生活・環境分科会の報告をさせていただく。

事 務 局 : (資料No.3 防災・生活・環境分科会の報告)

吉 田 委 員 : (資料No.3 産業・雇用分科会の報告)

竹 井 委 員 : (資料No.3 健康・福祉分科会の報告)

三 嶋 委 員 : (資料No.3 教育・スポーツ分科会の報告)

霜 田 委 員 : (資料No.3 魅力・文化分科会の報告)

大 石 委 員 : (資料No.3 自治経営分科会の報告)

会 長 : 続いて、今後の分科会の進め方の計画について説明をお願いしたい。

事 務 局 : 次回以降の分科会においても、前期基本計画の進捗を踏まえて後期計画への御意見、時代の変化への対応を意識した計画に結び付く御意見などを忌憚なく発言いただきたい。

その上で、後期計画期間を見据えて議論を深めていただくとともに、来月以降には、施策とSDGsとの関連付けに関する意見交換、また、その後にお示しする計画案の概要が見えてくることから、より踏み込んだ議論や意見交換を行っていただけのではないかと考えている。

なお、各分科会には、市の職員が出席するため、分科会の委員の皆様には、現状の確認にとどまらず、次期計画に向けての建設的な提案、活発な意見交換を行っていただきたい。

委 員 : 防災に関して、防災士や民間などの連携を図ると書いてあるが、災害時には消防士、医者など多くの団体が連携し問題の解決にあたるが多々ある。そのため、他業種団体とのネットワークづくりを進めることで、なお安心したまちづくりに結び付くと思う。

また、タブレットやITについて、いろいろな分科会で取り上げられている。分科会会長からの報告にもあったように、コロナ禍で一挙にIT化が進んだわけで、あまりに急に進むとSNSでのトラブルなども出て来ることから、小学生の段階から人権教育を行うことには全く同感である。

委 員 : 一次産業、例えば農業については、息の長い取組ともっと外から人を引き込む方が必要である。そのためには、柏崎はもっとポジティブにPRをしていく必要がある。柏崎市には、綾子舞の文化や洗練されたお菓子があるが、このようなところのPRも必要である。

また、医療分野では看護師が不足しているため、若い人の定着が必要である。高校側にうまく伝えていない状況があるかも知れないが、若い人に残ってくれるようなPRが望まれる。今、新潟県では、研修医を集めたイノベーター枠を設置しており、医者になり、将来、起業したいとか院長になりたいといった人を育てることとしている。こうした点も踏まえ、力を貸していただければと思う。

委 員 : 魅力に関して、柏崎は魅力があるまちだという意見が多いようだ。市民アンケートの結果でも、そのことが示されている。しかしながら、柏崎はやはりPRが非

常に不得手だと感じる。私も外から来て住んでみると、柏崎は住みやすいまちだと感じており、市民レベルで簡単に情報発信できる場、または仕組があると良いと思う。新潟工科大の歓迎会に関わっており、コロナ禍で昨年度は中止されたが、今年度は実施したいと考えて進めている。その中に「ようこそ柏崎プロジェクト」という、SNSによる魅力発信を行う取組があり、少しずつ始めている。このように、誰でも気軽にできるプロジェクトがあると良いと思う。

産業・雇用に関して、柏崎はやはり製造業が主になっているが、一部加工の会社が多く、三条市と比べるとコロナを始め社会状況の変化を受けやすい状況にある。三条市では自社製品を持っているところが多く、それが強みであり、柏崎も自社製品を持つことが大事で、また、それを支援していく仕組をより充実していくことが必要だと思う。

また、会議の方法について、どうしても時間が取れないこともあるため、リモートの会議を活用していくことも検討してほしい。

委員： 人に関する話が出て来ることが多いようで、柏崎にいかにか人をとどめるか、来てもらうかが課題であると感じた。このことについて、お金の視点からすると、地域における平均年収にプラス200万円あると、人（いい人材）が集まるというデータがある。お金と人の関係に親和性があると思っており、柏崎にどうしたらお金が入ってくるのか、資金が循環するのかという観点から考えると、もしかしたら何かヒントになるのではないかと思っている。

委員： 人口が減少しても、生産性を高めれば、一人当たりの収入は増えるということを学生に話した。人口減少に負けない経済を作る必要がある。

委員： たくさんの問題があることをあらためて感じた。産業を活性化させるためには人が必要だが、それには教育が大事など、いろいろな話が出ている。引き続き、各委員や市、それぞれの意見も聞いていきたいと思う。

委員： ワーク・ライフ・バランスの推進について、産業・雇用分科会や自治経営分科会両方で出ているが、これはどちらが引き取るのか。

事務局： どちらの分科会でも議論し、検討して行ってほしいと考えている。その上で、計画にどのようにまとめるかは改めて検討したい。

委員： 企業の制度に関しては産業・雇用分科会、意識啓発は自治経営分科会になるだろうと思う。

【第五次総合計画後期基本計画 施策の体系検討】

企画政策課長： （資料No.4に基づいて説明）

会長： これで決定ではなく、変更も可能だということによろしいか。

企画政策課長： そのとおりである。

委員： 分野横断の視点としてDXとSDGsの記載があるが、これまであまり議論していなかった。今後、どのように議論を進めていけば良いか。

企画政策課長： 先ほどの分科会の進め方でも述べたように、SDGsの関連付けは、次回の分科会で議論していただければと思っている。

DXについては、直接総合計画の中ということではなく、DX推進計画と関連付けていく。

委員： コロナ禍にあって、議論にブレーキがかかっている部分もあると思うが、ワクチンが有効に働けば、来年の今頃は状況も変わってくると思うので、前向きな議論

をしていけたらと思う。医療界では、働き方改革の土台が土俵に上がってきていて、非常に混乱している。また、県や国の地域医療構想が出てきて、病院の存続について何とか抵抗しているが、是非、地域の医療に対して地域や市の御理解・御協力をお願いしたい。

会 長 : 公共交通も大変だが、地域医療もみんなで支えていかなくてはいけない。では、現段階としては、この施策の体系をもとに議論を進めていく。

(3) その他

次回開催は、7月16日（金） 9：30～11：30

(4) 副会長挨拶

(5) 閉会